

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	国語科における教科横断的な学びの実践：『論語』『贈与論』『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を用いて
Author(s)	山口, 信介
Citation	中等教育研究紀要 / 広島大学附属福山中・高等学校, 61 : 154 - 159
Issue Date	2021-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/50876
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050876
Right	
Relation	



国語科における教科横断的な学びの実践

一 『論語』『贈与論』『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を用いて一

山口信介

学習指導要領で求められている教科横断的な学びの実践事例を紹介する。中学校での実践では、『論語』を教材とした。高等学校での実践では、教科書教材だけでなくマルセル・モース『贈与論』及びマックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の教材化にも取り組んだ。

1. はじめに

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」では〈これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、各教科等の学習とともに、教科等横断的な視点に立った学習が重要であり、各教科等における学習の充実はもとより、教科等間のつながりを捉えた学習を進める必要がある。〉と記されており、教科横断的な学びが求められている。これを受けて本稿では、国語科における教科横断的な学びの実践を中学2年生と高校3年生に分けて紹介する。

			S+O+C+V
--	--	--	---------

今回は中学生の授業なので、使役構文ではなく教科書教材『論語』を用いた。単元後半、学習者達は漢文・英語・日本語という3言語の特徴及び最適環境を考えるが、3言語の比較に取り組む学習者達の発言や記述の中に、彼女・彼らが言語の多様性に気づいて想像力を発揮した痕跡を見取ることをねらいとした。

(2)学習指導要領等との関連

〈「言葉による見方・考え方」を働かせる〉(小中学校学習指導要領 2017 年告示版・以下特に断らない場合は 2017 年告示版を指す) 能力の向上が期待できる。〈言葉による見方・考え方〉の定義(児童(生徒)が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること)(小中学校学習指導要領解説国語編)とも重なるものではないだろうか。母語である日本語を見直す機会となり、メタ認知能力を高める効果が期待できる。

2. 2年生(中学校)における実践

1) 単元のねらい

(1)使役「使」=「make」をきっかけに

使役・受身・比較といった漢文の句法や語順の理解は、中学校で習う英文法と対応させることができる。以前、高等学校で漢文の理解を深めるために句法と語順を意識しつつ授業を行っていた際、使役の句法が語順も含めて英語の使役構文と同じであることに気づき、生徒に英訳を課した。

言語	使役を示す語	←品詞	例文・語順
漢文	使(令, 教)	動詞	齊王使人取之。 S+V+O+C (「江南橋為江北枳」『説苑』高等学校教科書『古典B漢文編』教研出版)
英語	make (have, let)	動詞	The king of Sei <u>made</u> his men take this. (生徒作文) S+V+O+C
日本語	しむ(文語) / せる・させる(口語)	助動詞	齊王は家来にこれを取らせた。 (生徒訳文)

(3)無文字社会日本に輸入された文字資料『論語』

文字を持たなかった極東の島の住人たちが漢字を受け入れた時の衝撃はどれほどのものであっただろう。学習者にその追体験をしてほしいと考え、訓点の変更・無文字社会の想像・漢作文を課した。その教材として、史実とは言い難いが金印(漢委奴国王印・西暦 57 年授受『後漢書』)に次ぐ最古の輸入文字資料とされている『論語』は最適であると考えた。当校使用教科書では単元末尾に〈日本には西暦二八五年に伝わったと言われている〉と記されているが、これは記紀を根拠にしたものであろう。

<p>又、百済国に科せ賜ひしく、「若し賢しき人有らば、貢上れ」とおほせたまひき。故、命を受けて、貢上りし人の名は、和邇吉師。即ち論語十卷、千字文一卷、并せて十一卷を、是の人に付けて即ち貢進りき。 (新編日本古典文学全集 1『古事記』「応神天皇」小)</p>
--

学館・1997年・下線は引用者による（以下同様）

是に、天皇、阿直岐に問ひて曰はく、「如し汝に勝れる博士、亦有りや」とのたまふ。対へて曰さく、「王仁といふ者有り。是秀れたり」とまうす。～略～十六年の春二月に、王仁来り。則ち太子菟道稚郎子、師としたり、諸典籍を王仁に習ひたまふ。
 （新編日本古典文学全集 2『日本書紀』「応神天皇十五年」小学館・1994年）

なお、〈西暦二八五年〉は応神16年であるが、〈『千字文』の成立は6世紀であり〉（上記『日本書紀』「応神天皇」上段注釈）史実とは異なるので教科書が〈言われている〉としているのもうなずけるところである。

2) 教材

『論語』（教科書：学校図書『中学校国語2』）

3) 単元計画（全5次）

次	主な学習活動
1	昔の日本語話者になりきって「七十而従心所欲，不踰矩。」の訓点を変えてみよう。 教科書の訓読を句点を増やして次のように変更することも可能である。その試行錯誤は文字受容時に日本人が行った思考の追体験である。 ・「七十而従心所欲，不踰矩。」 ・「七十にして心の欲する所に従ひて，矩を踰えず。」（教科書） ↓ ・「七十而従心，所欲不踰矩。」 ・「七十にして心に従ふ。欲する所は矩を踰えず。」 （新釈漢文大系『論語』（明治書院1960年）記載の楊伯峻の説を踏まえた訓読）
2	当事（時）者になりきって，無文字社会の具体的な場面を想像し，考えたことを書こう。 音声言語はあっても文字言語のなかった当時の日本社会を具体的に想像し，その長所短所の上に留まらない深い洞察を原稿用紙に記述する。
3	次の日本語を英語と漢文に訳そう（英作文／漢作文）。 ・「おまえに物事を知るといことを教えよう。」 〔日本語〕（教科書『論語』為政より）

	<ul style="list-style-type: none"> ・「I will teach you what it means to know things.」（学習者の多くは「I will teach you learning things.」としていた。）〔英訳〕 ・「我 誨（教） 汝 知 之。」〔漢訳〕 <p>漢訳は教科書にあるので学習活動は教科書を見ないよう指示した上で行った。英訳は簡単にできていたが漢訳には苦勞していた。英語と漢文の共通点として語順SVO（人）O（物）が挙げられる。</p>
4	<p>国語教科書に載っている『論語』の漢文法と，英語教科書に載っている英文法の共通点を見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>有一言</u>而可以終身行之者乎。」（『論語』衛靈公） ・「<u>There are</u> two big parks in this town.」（「NEW CROWN」当校2年生使用教科書） <p>返読文字「有」「無」=Threr is (are)～構文。 英語と漢文どちらにおいても，存在を表す構文では先に「有」「(there) is」を置いてその後何があるかというその物を示す。その存在する物は，日本語のように主語としてではなく，「有」や「be動詞」の目的語的に提示される。</p>
5	<p>これまでの学習で得た言語文化に関する知識や見方・考え方をを用い，初読や既読の読みを更新しよう。更新の過程がわかるように書く。</p> <p>単元を貫く視点：1500年前，無文字社会の日本人が当時輸入された中国語（文字）をどのように受容したか。</p>

4) 当校2年生の教科書の比較

	国語	英語
教科書（会社）	中学校2年生国語（学校図書）	NEW CROWN（三省堂）
共通点1	「有」「無」（返読文字）= There is(are)	
掲載ページ	P200：論語「行動する心」（衛靈公）	P42：Lesson 4（Enjoy Sushi），P50：Lesson 4 文法のとめ，P132～133：基本文のとめ
具体的な記載	・ <u>有一言</u> 而可以終身行之者乎。	・Well, <u>there are</u> several sushi restaurants in this town.

		・ <u>There are</u> two big parks in this town.
共通点 2	動詞 (teach・give等) + A + B 主語 + 動詞 + 目的語 (人) + 目的語 (物)	
掲載ページ	P199 : 論語「深まる心」(為政)	P58 : Lesson 5 (Uluru), P66 : Lesson 5 文法のまとめ, P128 : 絵でわかる英語のしくみ, P132 ~133 : 基本文のまとめ
具体的な記載	・ 由, <u>誨</u> 女知之乎。 (「誨」:「教ふ」)	・ I will <u>show you</u> some pictures. ・ I will <u>give</u> Koji a book. ・ 動詞 (giveなど) + A + B ・ give, show, <u>tell</u> , <u>teach</u> / make, buy, get, cook

5) 教科横断的な学びの準備として

授業に際し、英語科担当教員に事前に相談して2年生が使用している教科書を借り、助言を求めた。特に次の(1)~(4)についての助言が参考になった。

- (1) SVO (人) O (物) がどの教材に載っているか。
- (2) SVOOとSVOCの違い。
- (3) SVOという表現を使っても生徒に伝わるか。
- (4) 既習かどうか。英語科ではどのように教えているか。

今学期、目的語を二つ取る動詞及びその語順については学習済みとのことだったので、英語の既習内容を振り返ることで漢文の学習が深まることを意図した。

このように、教科横断的な学習を実践する際、授業者は事前に連携する教科の担当者に相談する必要がある。教材の適性や指導内容の学習状況等について有益な情報交換ができ、指導に生かすことができる。

3. 6年生(高校3年生)における実践

1) 教材

次の文章を教材とした。教科書教材と自作教材がある。

- (1) 中沢新一「Not I, not I…」(教科書)
- (2) 中沢新一『純粋な自然の贈与』

自作教材。教科書教材「Not I, not I…」の出典から他教材と関連の深い部分を抜粋した。

(3) 今福龍太『ファンタジーワールドの誕生』(教科書)

(4) マルセル・モース「ギフト, ギフト」

自作教材。『贈与論』の序文であり、そのエッセンスが詰まっている。長さが適当であり、引かれている各社会の文化的習慣も、ギフトの両義性(贈り物/毒)やポトラッチなど、興味深いものが多い。

(5) マルセル・モース『贈与論』

自作教材。これを機に文庫版1冊を読了し、贈与が受取と返礼の義務を生む構造やポトラッチなど重要と思われる部分を抽出して抄を作成した。

(6) マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

自作教材。贈与論との比べ読み教材として資本主義の発生過程を論じた社会学の古典を用いた。今年2020年はマックス・ウェーバー没後100年ということもあり、関連書籍の出版も多く、ぜひ生徒に触れてほしい書物であった。これを機に1冊読了し、資本主義の発生過程を逆説的に説明した部分の中から「予定説」「天職の召命」と資本主義の関係を説明した箇所を抜き出して抄を作成した。例えば次のような部分を抜き出した。

〈けれど、ピューリタンは人生のあらゆる出来事のうちに神の働きを見るのであって、そうした神が信徒の一人に利得の機会をあたえ給うたとすれば、神みずからが意図し給うたと考えるほかはない。したがって、信仰の深いキリスト者はこの機会を利用することによって、神の〔天職への〕召命〔コーリング〕に応じなければならない。「もしも神があなたがたに、自分の靈魂も他人の靈魂も害うことなく、律法にかなったやり方で、しかも、他の方法によるよりいっそう多くを利得しうるような方法を示し給うたばあい、もしそれを斥けて利得の少ない方法をえらぶとすれば、あなたがたは自分に対する召命〔コーリング〕の目的の一つに逆らい、神の管理人としてその賜物を受けとり、神の求め給うときに彼のためにそれを用いることを拒む、ということになる。もちろん肉の欲や罪のためではなくて神のためにあなたがたが労働し、富裕になるというのはよいことなのだ。」富が危険視されるのは、ただ怠惰な休息や罪の快樂への誘惑であるばあいだけだし、富の追求が危険視されるのも、他日煩いなく安逸に暮らすためにおこなわれるばあいだけで、むしろ〔天職である〕職業義務の遂行として道徳上許されているだけでなく、まさに命令されているのだ。〉

(7) 世界史の教科書

カルヴァンの「予定説」や宗教改革について説明した部分を用いた。このことで上記(6)との教科横断的な学びを取り入れる必要が生まれた。教科書記述の一部を引く。

〈ルターにつづいてスイスで改革をすすめたフランス人カルヴァンは、救いは神によってあらかじめ定められて

いると説いた(予定説)。彼は、それを確信する手段としての勤労をすすめ、蓄財を肯定したため、この教えはイギリス・フランス・オランダの商工業者を中心にひろまった。(山川出版社『要説世界史』)

これを読むだけでは禁欲から資本主義を逆説的に導出する理路は見えない。宗教的禁欲から資本主義を導出する理路は「怠惰・肉欲→それらを忘れる禁欲手段としての勤労→勤労がうまくいくかどうか=天職が与えられているかどうか=魂の救済が予定されている者かどうか→死後の救済を求める信仰心に基づいた熱心な労働→利潤の発生→蓄財の肯定、怠惰の否定及び隣人愛としての資本投下→更なる利潤の回収→資本の増殖」である。それをテキストから読み取らせるために、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』から「予定説」や「天職の召命」について述べた部分を集めて教材(6)を作った。

(8)小坂井敏晶『神の亡霊 6 近代の原罪』(2020 年度東京大学入試問題)

(9)小川国夫『体験と告白』(2020 年度京都大学入試問題)

2) 教科横断的な学びの位置づけ

中学生の実践では国語科と英語科との教科横断的な学びを中心に据え、日・英・漢の言語文化の違いを考察したが、今回の高等学校での実践では現代文における教材読解において副教材的に世界史の教科書記述を使用し、教科横断的な学びは単元の一部に取り入れるに留めた。

3) 単元計画 (全4次)

次	主な学習活動
1	教材上記(1)(2)(3)(4)(5)の比べ読み(贈与論)。新型コロナウイルス感染症の拡大で休校期間に入ったので自宅学習となった。比べ読みの過程や結果をレポートにまとめ、Google Classroom を用いてオンライン提出した。「贈与=結合」と「売買=分離」という対比構造の発見を目指した。
2	教材(6)(7)の比べ読み(資本主義)。「禁欲倫理→勤労→利潤→蓄財→利潤や蓄財の肯定→資本主義」という『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の表面的な読解を乗り越え、あくまでもテキスト教材(6)にこだわり、地歴公民との教科横断的な学びを取り入れることで、カルヴァンの「予定説」や「天職への召命」を踏まえた深い読解へ向かうことを目指した。
3	教材(8)(9)の比べ読み(意図の否定)。

	単独での問題演習を行う過程で「意図の否定」という二教材の共通点に気づくことを目指した。
4	教材(5)(6)(8)(9)の比べ読み(単元のまとめ)。前次までを踏まえ、4教材の比較分析を図表にまとめる。4教材の比べ読みを行うことで全教材を俯瞰することができる。

5) 上記4) 単元計画4次のモデル例

4次では、学習者の意見を取り入れつつ、全教材を俯瞰する次の表をモデルとして示した。

著者	著作・論文	意図の否定
マルセル・モース	贈与論	返礼を意図しない(ふり) = 贈与の儀礼 「つまらないものですが…」 「作りすぎちゃって…」
マックス・ウェーバー (没後 100 年)	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	金儲けをねらってはいけない。意図しない結果としてなら利潤が出たりそれを蓄財したりしてもよい。いや、むしろ奨励する。それこそが、あのお方がお前に天職を授けられていることの、つまりはお前の魂が死後において救われる予定であることの証左なのだから。
小坂井敏晶	神の亡霊 6 近代の原罪 (2020 年度東京大学入試問題)	内面(意図)は存在しない。全ては <u>生</u> 体的・身体的・ <u>natural</u> な反応・反射に過ぎない。
小川国夫	体験と告白 (2020 年度京都大学入試問題)	<u>盛</u> って語る体験談の否定。 <u>真</u> 実や弱点を <u>あ</u> げようとす <u>る</u> リアリズム小説の失敗。 <u>unnatural</u> に作られた庭園。人の口から発せられる <u>生</u> の言葉の <u>原</u> 野…自然 <u>nature</u> の賞賛。
c f 1	シンデレラをはじめと	<u>ね</u> らってガラスの靴を落とすわけではない。天然・

	する昔話(物語)	自然 (natural・nature) 賛美。 1人目：天然→褒美・幸福 2人目：意図 (的模倣) → 厳罰・不幸 義姉たち。隣のおじいさん。
c f 2 シェークス ピア	リア王	渋谷治美 (埼玉大学) による分析「nature with merit」： リア王が娘たちに課した領地を譲るための条件＝父である私への真心 (nature) におべっか (merit) が伴って (with) いなければならない (逆説的な命題)

6) 学習者の記述

学習者の記述を紹介する。(1)は単元計画1次、(2)は4次におけるものである。どちらも教科横断的な学びの実践といえる内容となっている。特に(2)は、テキストの丁寧な読み込みと教科横断的な知見を基に、「世俗化」(「宗教色」の弱体化) という視点によって資本主義を i ウェーバーが研究対象とした宗教的な裏付けの強い原始資本主義と ii 伝播・拡大する過程で世俗化していった近代資本主義とに分節することに成功した。原始資本主義に見られたプロテスタンティズムという裏付け、これを学習者は「合理性」と呼んでいる、が我々が自明としている近現代資本主義には存在しないと指摘できた。なお、この学習者は贈与論と資本主義の架橋としてベーシックインカムにも言及していたがその部分は割愛した。

(1)学習者の記述例1：『贈与論』を中心とした比べ読み [5つの贈与論に関する文章を読み、多くはヨーロッパ諸国からの視点で見て、例えば太平洋の島々やアメリカの先住民の存在や思考、そして社会のあり方を考察しているように感じた。しかし、私は、贈与から売買経済への変遷や、西洋的かつ〈帝国主義的な想像力〉(ファンタジー・ワールドの誕生・P147・L6) と、それによって創り出された未開の文化と呼ばれるものの出会いを日本の場合でも発見できるのではないかと考えた。

まず第一に、中国と日本との関係性を考えたい。旧来、中華王朝は周辺国を冊封し、中国が主、周辺国が従という形で朝貢貿易を行ってきた。日本のような周辺国の『贈与』に対し、中国は赤字覚悟の『返礼』をする。この返礼の大きさで権威を示すことで、中国は東アジアに強い影響を及ぼしてきた。この『返礼』が、先住民族におけるポトラッチで、〈ポトラッチの提供者が受領者

に優越するという考え方〉(贈与論 (抄)・P5・L23) をまさに国家間で体現しているのではないかと思う。無論、当時の両国にも貨幣経済は浸透しており、それを利用した貿易がなされていたが、明治期に両国で近代化・欧米化が始まるまでは贈与は精神面で大きな役割を果たしていたのだと思う。

第二に考えたいのは、いわゆる未開の文化と日本との関係である。近代以降の日本は、当時未開の地であった『北海道』の開拓を一種の帝国主義的ドクトリンのもとで進めた。日本人は多くのアイヌ人と会い、アイヌ人は多くの日本人と出会った。江戸時代も物々交換的な交易を松前藩を通して行っていた彼らには貨幣経済も存在せず、贈与的社会が形成されていたと考えられる。物々交換をする [eiyok] のはもちろん、狩猟で得た動物、特に熊やアザラシを自然からの供物と考え、神 [kamuy] として儀式を開き、送り出す。これはまさに〈存在の世界の豊かな富を与えてくれた神に対する、カウンターギフト〉(純粋な自然の贈与・P8・L15～L16) を体現している。その後、日本人との同一化が図られて行き、儀式は廃れ、『eiyok』の意味も『売る』という意味に変化したことにも現れているように近代の日本文化と同じ売買経済の中に組み入れられていった。しかし、今でもアイヌの文化は保存され、その体験な展示は大きな観光資源となっている。このことを考えると、日本は西洋の影響を受けて、経済がそれまで以上に売買の原理の中で行われるようになって行き、そして精神の部分までもがそれに沿うようなものに、知らず知らずのうちに変化していったことを実感できると思う。そして、「ファンタジー・ワールドの誕生」に描かれていることが、まさに我々の姿であることを実感した。～略～

(2)学習者の記述例2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』と『贈与論』の関係についてまとめた表とレポート

①比較・変遷表 (「※」やその説明も学習者による)

	贈与 → (未開社会)	原始資本主義→	近代資本主義
普遍性 度	高 (全体的な給 付体系)	低 (カルヴァニズ ムの影響)	やや高※1 (世俗化の進 展)
宗教色	? ※2	強	弱
発展性	低～高※3	中	高

合理性	強 (精霊・信仰による正当化)	強	弱
検証可能性	低	高	高
<p>※1 「やや高」である理由は、資本主義の形態が主に宗教の影響で微妙に違うから。cf: イスラム銀行</p> <p>※2 「？」とした理由は、やはり贈与が全体的な給付体系である故であり、ポトラッチに見られるような神や精霊との結びつきは爾後的なものとも考えられるから。実際に宗教と結びつかない場合も多い。</p> <p>※3 未開社会がそうであるように基本的に低い。資本主義との併用で高くなることがある。</p>			

②レポートの記述 (抜粋)

〔ウェーバーは、アガペーの実践を重要視するキリスト教の中でも特に厳格なプロテスタント（特にカルヴァン派）が、本来相容れないはずの資本主義の発展に欠かせない利益追求を正当化する役割を果たした、という逆説を提示しています。その上で考えると、資本主義よりも、むしろ競覇的な性格を持つ贈与の精神の方が人と人とを分離するようにも見えてきます。否、分離という言葉の過ぎになるでしょうが、実際、資本主義の根拠がキリスト教にあり、キリスト教の根拠が人類普遍の贈与の原理（アガペーが該当します）にある以上は（つまり資本主義が贈与の精神から派生した）、資本主義がより進化したシステムで原始的な贈与の精神よりも優位にあるという結論に至るのは自然でしょう。〕

〔以降、資本主義が広まり贈与精神に取って代わるようになりますが、～この時期においては、贈与精神がその普遍性ゆえに併存してはいても、資本主義の優位性が浸透しています。しかし、資本主義のこの基本原理はルーツが贈与精神とは異なり人類普遍のものではなく、限定的であったために伝播するのに連動して世俗化が進展することになります。モースが贈与論を発表した時代にちょうど社会主義が台頭しますが、これは世俗化を経て資本主義の合理性が危殆に瀕したためです。今日、社会主義は勢力を弱めています、資本主義の合理性の問題は残ったままです。モースは贈与による第三の交換体系を「復権」させることを考えました。中沢氏はこれに同意している訳です。実際復権するかどうかは分かりませんが、それ以外の交換原理は世俗化（やそれに類する現象）が進展しないように各々の文化に閉じたものとして保ち続けられない限りは根源的な脆さを孕み続けます。これは一度正当化されたものだからです。したがって、初期の資

本主義と近代資本主義はプロ倫の考えに従えば別個のものとして見なす必要があります、～〕

4. まとめ

教科横断的な学びを取り入れることにより授業者・学習者ともに複眼的な視点を獲得することができた。中学生での実践、高校生での実践ともに『論語』『贈与論』といった古典を扱ったことが功を奏した。特に『論語』の読解は、古典・定番教材であるだけに新たな視点を獲得しづらい面があったが、学習者自身が教科書の『論語』の一部を英訳・漢訳することで別の視点に立つことができた。そしてその視点は時を超えて文字輸入時の日本人の視点とも重なるものであった。

課題としてはこの実践が一過性のものになってしまう可能性が指摘しうる。全ての単元に教科横断的な学びを取り入れることは準備量の多さからできないにしても、取り入れる必要性和効果の高い単元を見きわめ、定期的導入していきたい。

引用・参考文献、教材等の出典

- (1)文部科学省「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」2016年8月
- (2)文部科学省「教育課程部会 言語能力の向上に関する特別チームにおける審議の取りまとめ」2016年8月
- (3)樺山紘一『情報の文化史』朝日新聞社1988年
中世ヨーロッパにおける音声伝達の実際を記す。〈街頭に立って、禁令を触れ回る役人〉、〈仲介スピーカー〉、〈いまのわたしたちとは段違いの耳〉など、想像を裏切られる。
- (4)水村美苗『日本語が亡びるとき』筑摩書房2008年
無文字社会に文字が輸入された際、必然的に〈二重言語者〉が存在することになったはずだと指摘する。
- (5)倉島節尚『中高生からの日本語の歴史』（ちくまプリマー新書）筑摩書房2019年
- (6)東京大学 CoREF : <https://coref.u-tokyo.ac.jp/>
- (7)京都大学高等教育開発推進センター
<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/activelearning/>
- (8)マルセル・モース『贈与論 他二篇』岩波書店2014年
- (9)マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波書店1989年
- (10)中沢新一『純粹な自然の贈与』講談社2009年
- (11)奥野克巳『ありがとうもごめんなさいもいらぬ森の民と暮らして人類学者が考えたこと』亜紀書房2018年
- (12)檜垣立哉『食べることの哲学』世界思想社2018年
自己の一部を食べさせるアンパンマンを贈与論・カニバリズム・臓器移植問題へとつなげる。